

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出支援が可能な職員配置であるが、個々の職員が業務に縛られ、個別支援等の柔軟な支援が行われていない。午後2時には利用者がパジャマに更衣する日課となっており、気軽な外出が行えない	気軽な外出ができる	①全体的な業務見直しを職員会にて実施。寝衣への更衣は夕食後へ変更(1/31) ②地域の催し物への参加提案を引き続き行い、外出を業務として設定する ③職員自ら活動起案書を作成する	3ヶ月
2	36	トイレ介助の際、扉が開いたまま行われている等、職員の利用者一人ひとりに対する尊重やプライバシー確保への意識が十分ではない	プライバシーへの意識が持て、ケアが行える	①トイレ出入り口にカーテンを設置(早急に) ②職員に対し、プライバシーに関する勉強会・アンケートを実施	3ヶ月
3	40	献立が職員の嗜好で作成されており、高齢の利用者に合わせたものではない。献立がワンパターン。また、準備や後片づけは、職員の準備・片付けの手順へのこだわりが多く、利用者がなかなか関わる事が出来ない状況。	利用者主体の献立作成及び利用者が調理・準備へ参加出来る	①利用者の好きな食べ物・飲み物アンケートを担当職員に依頼し実施 ②献立の見直し(分量込) ③食材購入方法の変更(業者依頼) ④利用者との調理が出来る様、調理道具の購入(包丁・まな板等) ⑤調理場を整理し、利用者との調理がしやすいスペースを確保する	3ヶ月
4	6	職員は身体拘束について、理解はしているが、解決への取り組みを行ったり、継続的に知識を得ようとする事がなく実践は不十分。また、言葉による拘束についても、その都度注意が必要であり、拘束について勉強会や研修の機会が必要	継続的な勉強会の実施が出来る	①基本的な身体拘束となる行為について、再度回覧にて確認。 ②職員に対し拘束に対する意識アンケートを実施 ③毎年勉強会を実施(グレーゾーン・言葉の拘束への理解) ④外部研修参加(2/28予定)	6ヶ月

5	1	理念の内容や意味について、職員それぞれの解釈に相違があり、実践出来ていない。理念である「貴方らしい生活の支援」が出来る様、利用者主体の日常的に自己選択ができる生活支援を行う必要あり。	理念の意味を理解し、自己選択を意識した声掛けが出来る	①理念の解釈を再度確認。職員会にて理念の意味について統一を図る ②利用者の自己選択・自己決定について、具体的例を挙げ勉強会を実施する	6ヶ月
6	23	業務の合間に利用者とマンツーマンで過ごす場面はあるが、本人の想いを汲み取りながら、ゆっくりと会話をする場面が少なく、会話が介護者としての提案・指導となりがち。また、職員一人一人が業務に縛られており、利用者との対話や個別支援が優先されていない。日常会話ではなく、本人に合わせた話題の提供や、聴く姿勢が必要	利用者と一緒にゆったりとした時間の中で話をする事ができる	①勉強会にて、基本的なグループホームの知識について確認 ②業務見直しを行い、午後は利用者と一緒にゆったりとした時間とする ③センター方式私の暮らし方シートを各担当者が記入。情報収集を改めて実施	10ヶ月
7	26	利用者の日々の情報が共有されておらず、利用者の些細な変化や言動からの気づきが見逃され介護計画に反映されていない。「前から・・・」「いつもこうだから・・・」と話す職員が多く、セルフケアプランに向けた実施が出来ていない	情報の共有を行い、プラン作成が出来る	①日々の気づきは記録へ記載する様、継続して伝達 ②担当職員を中心に、ケアの見直しを行う ③毎年認知症の理解について勉強会を実施 ④職員の外部研修参加・認知症ケア講習会等	12ヶ月
8	35	災害時の食材の確保も十分ではないが、備品の確保が不十分	災害時の備蓄の確保・管理を行う	①災害用の備蓄食材の購入・保管 ②備蓄品チェックリスト作成 ③災害用物品の整備 ※全て防火管理者が実施	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。